

内の関係

構造による分類

被修飾名詞が修飾節の中の述語に対して格関係を持つもの。

ガ格	ヲ格	二格	へ格	ト格 (相手)	デ格	が被修飾名詞 (主名詞/底) になる事ができる。
カラ格	マデ格	ヨリ格		ト格 (共同者)		は被修飾名詞 (主名詞/底) にはなれない。

先生に褒められた 大学で広まっている プリンを作る作る パンを焼く	学生 噂 人 花子	ガ格接続	学生が 噂が 人が 花子が	先生に褒められた。 大学で広まっている。 プリンを作る作る。 パンを焼く
花子が焼いた 田中さんが食べた 娘が弾いている 経営者に対して行う 社会に抱く 中国で作った	パン ケーキ ピアノ 提案 不満 車	ヲ格接続	パンを ケーキを ピアノを 提案を 不満を 車を	花子が焼く。 田中さんが食べた。 娘が弾いている。 経営者に対して行う。 社会に抱く。 中国で作った。
僕が餌をあげた 私が単位を与えた	猫 学生	二格接続	猫に 学生に	僕が餌をあげた。 私が単位を与えた。
評論家が議論をする	相手	ト格接続	相手と	評論家が議論をする。
彼女と初めて会った プリンを作る	食堂 材料	デ格接続	食堂で 材料で	彼女と初めて会った。 プリンを作る

<input type="checkbox"/> 名詞修飾節にできない「ト格 (共同者)」「カラ格」「マデ格」「ヨリ格」 山田さんが友達 と 駅に行った。 *山田さんが駅に行った友達 木下さんが8時 から 働く *木下さんが働く8時。 田中さんは8時 まで 働く *田中さんが働く8時。 1人 より 仲間という方が落ち着く *仲間という方が落ち着く1人。	<input type="checkbox"/> 連体修飾節内では「タ形」と「テイル形」が同様に表れる 太 った 猫 = 太 っている 猫 眼鏡をかけた人 = 眼鏡を かけている 人 甘味が増したトマト = 甘味が増 している トマト
<input type="checkbox"/> 連体修飾節の述語には普通形が使われる。丁寧形は使用でき無い 先生が 書いた 本。 *先生が 書きました 本 (非文)	丁寧体「飲みます」有標 普通体「飲む」無標 連体修飾節：「*飲みます水」「飲む水」と普通体が選択：中和 丁寧さは主節の文末述語で表示。有標無標中和 ヤコブソン音韻論概念

外の関係 **構造による分類** **被修飾名詞と修飾節の中に述語との間に格関係が無いもの。**

彼は英語を教える	仕事	に携わっている。	仕事が	英語を教える	成立しない →外の関係
			仕事を	英語を教える	成立しない →外の関係
			仕事に	英語を教える	成立しない →外の関係
			仕事へ	英語を教える	成立しない →外の関係
			仕事と	英語を教える	成立しない →外の関係
			仕事で	英語を教える	成立しない →外の関係

内容補充修飾節	一定の内容を持つ被修飾名詞に対し、その内容を説明する修飾節。「という」の観点で3つに分類される。				
彼は英語を教える 修飾節	仕事 被修飾名詞	に携わっている。	仕事は格関係を持たない。彼は英語を教えるが内容を明確化している。 (内の関係と意味合い的には近い機能を持つ)		
①「という」が必要な名詞	[との]	発話や思考に関する名詞「引用的」	意見 噂 考え 訴え 報告 指摘 指示 約束		
ダムを建設して欲しい ダムが建設される ダムがある方がよい ダムを建設すべきだ	という という という という	意見 噂 考え 訴え	ダム建設が終了した ダム建設に問題がある ダム建設を終わらせる ダム建設を終わらせろ	という という という という	報告 指摘 約束 指示
「ガノ可変」連体修飾詞内で「が-の」交代 背が/の高い人 火災が/の起こる危険性 「という」接続では「の」は現れにくい 浦島太郎 が /*の 竜宮城へ行った という 話					
②「という」が入っても入らなくても良い名詞。	内容説明を必要とする事柄を表す名詞。		事件 事実 状態 仕事 結果 性格 特徴		
ダムが破壊された ダムが破損していた すぐに決断をする 濡れると赤くなる	という という という という	事件 事実 性格 特徴	ダムが破壊された ダムが破損していた すぐに決断する 濡れると赤くなる	事件 事実 性格 特徴	日本語を教えるという 仕事 日本語を教える 仕事
③「という」が不要な名詞	感覚や知覚に関する名詞		味 匂い 音 気配 絵 写真		
太郎が走っている 太郎が泳いでいる 花子がパンを焼く 誰かが階段を上る	絵 写真 匂い 音	*太郎が走っている *太郎が泳いでいる *花子がパンを焼く *誰かが階段を上る	という という という という	絵 写真 匂い 音	非文 非文 非文 非文

相対名詞修飾節	「翌年／前／理由」など相対的な内容を表す名詞を非修飾節に持ち、位置や時間、因果関係を表す。	
<p><input type="checkbox"/> <u>大きなビルが建っている</u> 非修飾名詞の場所の起点を表す</p> <p><input type="checkbox"/> <u>記録的大雪が降った</u> 非修飾名詞の時間の起点を表す</p> <p><input type="checkbox"/> <u>彼女が泣いていた</u> 修飾節が因果の結果を表す</p>	<p>右側 に川が流れている。 非修飾名詞</p> <hr/> <p>翌日 に大きな雪崩が起きた。 非修飾名詞</p> <hr/> <p>理由 は彼にふられたからです。 非修飾名詞</p>	<p>右側に川が流れている →何の右側に=大きなビルが建っている右側に。 *右側に大きなビルが建っている：意味的におかしい</p> <p>翌日に大きな雪崩が起きた。 →いつの翌日か=記録的大雪が降った *翌日に記録的大雪が降った：意味的におかしい</p> <p>理由は彼女にふられたからです。 その結果→彼女が泣いていた。L *理由は彼女が泣いていた：意味的におかしい</p>
付随名詞修飾節	事態を構成する述語と格関係を持たないが、事態と関りを持つ名詞が非修飾名詞となっている。	
<p><input type="checkbox"/> <u>検定試験に合格する</u> 修飾節は、非修飾名詞に関わる</p>	<p>意義 は大きい。 非修飾名詞</p>	<p>「試験に合格する」が「意義」に関りを持つ。</p>